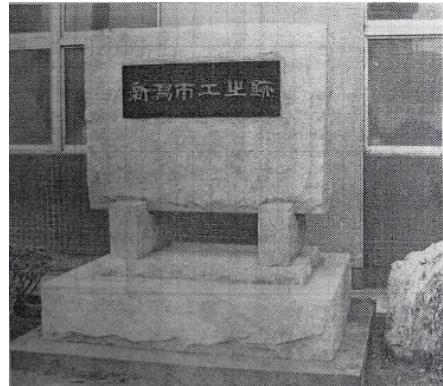


「新潟市工之跡」石碑保存について



バス停近くにあった石碑



校章は、工業の「工」の字六つを六角形に図案化し、雪国を象徴的に表し、中央に穩健着実型の「工」の文字を配して作られた。これは、開校前の木工試験場長の竹内氏が考え、初代校長の美旗実之助氏が図案化したものです。



今はなき、バス通りにあった解体前の旧市立工業高等学校の校舎

「新潟市工之跡」石碑建立と移転の経緯

◎ 新潟市下町に、唯一の新潟市立工業高等高校が開校

昭和 20 年 3 月 新潟市立工業高等高校として開校
(新潟市鉄工組合の解散により、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けて開校、生徒 50 名、専任職員 3 名、講師 8 名)



新潟市木工試験場校舎

- 〃 21 年 4 月 新潟市木工試験場を買収、本拠とする
- 〃 23 年 3 月 第一期卒業生 40 名
- 〃 23 年 4 月 新潟市立工業高等学校と改称し、定時制課程も設置
- 〃 24 年 2 月 国立倉庫解体の用材を用いて体育館、普通教室を作る
- 〃 25 年 4 月 国内唯一の造船科を新設 生徒 40 名
- 〃 26 年 3 月 校歌制定 作詞：大木 慎夫、作曲：岡本 敏明
- 〃 31 年 4 月 機械科 1 学級増設
- 〃 〃 第二代目磯貝校長により「校訓」が決まる
- 〃 32 年 4 月 定時制に機械科 1 学級増設
- 〃 34 年 4 月 電気科 1 学級新設
- 〃 36 年 4 月 定時制に電気科 1 学級新設
- 〃 38 年 3 月 改築校舎本館完成
- 〃 39 年 6 月 16 日 新潟地震発生、津波と液状化により付近一帯床上浸水となる



新潟市工校旗

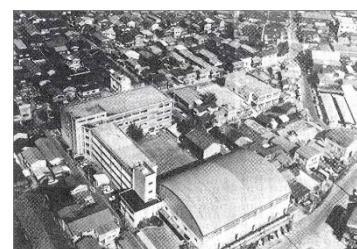


改築となった本館校舎

- 〃 39 年 6 月 30 日 授業再開
- 〃 42 年 10 月 新体育館完成
- 〃 44 年 9 月 新校舎増設 1 期工事完成
- 〃 46 年 10 月 創立 25 周年記念式典挙行
- 〃 48 年 4 月 新教育課程発足機械科 1 学級増設
- 〃 50 年 10 月 創立 30 周年記念式典挙行
- 〃 53 年 12 月 市議会にて市立高等学校整備が決まる
- 〃 54 年 1 月 市立白山高校、市立工業高等学校の両校で検討
- 〃 55 年 4 月 新潟市立高志高等学校発足
- 〃 56 年 3 月 定時制閉課程記念式挙行
- 〃 56 年 11 月 閉校記念碑「新潟市工之跡」碑除幕式
本校正面玄関脇の庭に、裏面に校章、校名、校歌、沿革、卒業生数等を記す
書体は、大泉二郎氏（昭和 40 年定時制機械科卒）作成
- 〃 57 年 3 月 最後の卒業証書授与式



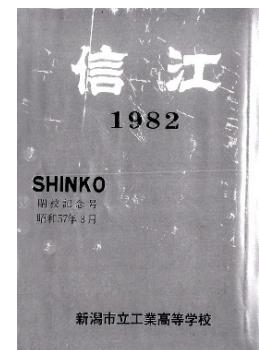
バス道路も水深 30 cm 程であった



昭和 57 年空撮

卒業生総数 6,956 名

全日制課程	4,982 名	定時制課程	1,974 名
機械科	2,957 名	機械科	1,323 名
電気科	1,462 名	普通科	258 名
造船科	563 名	電気科	393 名



昭和 57 年 3 月発行の閉校記念号

昭和 58 年 4 月	新潟市立工業高等学校の跡地に北部コミュニティセンター入所
昭和 58 年 4 月	北部コミュニティセンターオープン、本館 2F に舟江図書館移設オープン
令和元年 7 月	旧入舟小学校の跡地に北部コミュニティセンターオープン
同日	北部コミュニティセンターオープンに伴い、本館 2F に舟江図書館移設
令和成 4 年 3 月	跡地一般競争入札 株式会社「廣瀬」が落札 校舎解体 記念碑は台座の脇に寝かされた



同年10月1日 よみがえれ！わが町に「新潟市工之跡」の石碑の記事

同年 10 月 17 日 附船町住民の岩間 正吉氏が記事を発見、

新潟北部開發協議会 青年部二〇一二

この碑は、新潟下町に唯一あった高校であり、7,000名の若き技術者が巣立ち港町新潟の発展に貢献した。昭和39年の新潟地震では、地域の方々の避難場所となった。

昭和 57 年、新潟市学校統合方針により閉校したがその後、北部総合コミュニティセンターとして、図書館として、地域の方々の運動場として、下町に親しまれた施設であった。

この石碑は、新潟市下町の歴史でありその「証し」として残し、次世代に伝えるべきものと、市立工業高等学校卒業生の加藤 功に連絡し保存活動を開始した。

同年 11 月 20 日 附船町町内会長の近藤 清氏も賛同、記念碑保存の署名集め開始

同年 11 月 30 日 佐藤正人市議、伊藤健太郎市議と加藤が、ひらせいホームセンター清水社長と会い、社会貢献事業として保存の了解をいただく

同年12月13日 「新潟市工之跡」記念碑保存の町内会回覧署名集めを配る

同年 12 月末 「新潟市工之跡」 記念碑保存の署名

令和5年2月26日 会の名称を「新潟市工之跡」石碑保存の会とした

同年3月 「新潟市工之跡」 記念碑台座案作成

同年4月 「新潟市工之跡」 記念碑移設看板の文

同年6月 ようやく記念碑を置く場所が決まる

同年7月 「新潟市工之跡」石碑移設除幕式を



校

歌

大木 慎夫
岡本 敏明 作詞

一 飯豊山 そびゆうかたに
朝雲の のぞみは高し
新らしき工の業と
まなひなむ跋みて修めて
人のきのさいはひのため
あわれら青空を慕はばや

新潟市工校歌

作曲:岡本 敏明(おかもと としあき)

明治 40 年 3 月 19 日～昭和 52 年 10 月 21 日

昭和時代に活躍した日本の音楽家(作曲家)、宮崎市生まれ。父親は同志社神学校牧師。

大正 13 年 福島中学(現・福島県立福島高等学校)卒業。

昭和 4 年 東京高等音楽院(現・国立音楽大学)卒業一回生。玉川学園創立に携わる。

昭和 52 年 70 歳で没する。

代表曲:「どじょっこふなっこ」、玉川学園校歌(1929 年)など

作詞:大木 慎夫(おおき あつお)

明治 28 年 4 月 18 日～昭和 52 年 7 月 19 日

日本の詩人・翻訳者・作詞家。本名は軍一。1932 年までは篤夫(あつお)と名乗っていた。

太平洋戦争(大東亜戦争)中の戦争詩で有名だが、児童文学作品他、「国境の町」などの歌謡曲、「大地讃頌」をはじめとした合唱曲、軍歌、社歌、校歌、自治体歌の作詞も多い。

1967 年 紫綬褒章、1972 年 勲四等旭日小綬章。

代表曲に東海林太郎の「国境の町」、「戦友別盃の歌」など

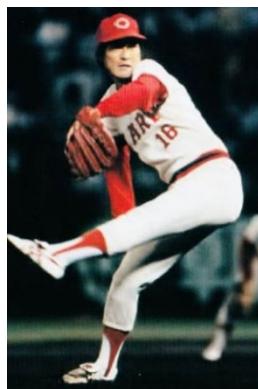
新潟市立工業高等学校卒業生

★佐藤 忠男氏 文化功労者



日本の評論家、編集者
日本映画大学名誉学長
1989 年、第 7 回川喜多賞
1996 年、紫綬褒章を受章
2019 年、文化功労者
2022 年死去、91 歳

★三輪 悟氏 プロ野球選手



甲子園県予選準決勝に進む
1970 年西鉄ライオンズ入団
1975 年広島東洋カープへ移籍
球団史上初のリーグ優勝に貢献
自叙伝「マウンド人生」を出版
2021 年死去、75 歳

★久仁 京介氏 作詞家



(社)法人日本作詩家協会副会長
1967 年、作詞家デビュー
2015 年第 48 回日本作詩大賞受賞
新沼謙治「津軽恋女」
日吉ミミ「男と女のお話」
福田こうへい「南部蟬しぐれ」
など多数の歌手の作詞を作る

★三林碩郎、第 86 代新潟県県会議議長歴任 2019 年死去、72 歳

★小嶋栄吉、日本労働組合総連合会新潟連合会議長歴任 など

「新潟市工之跡」石碑保存の会

代表 中央区附船町1丁目住人 岩間正吉 昭和34年新潟市工卒業生 久仁京介

中央区附船町1丁目町内会長 近藤清 昭和40年新潟市工卒業生 加藤功

お問い合わせ先:「新潟市工之跡」石碑保存の会 加藤功 携帯090-4701-3910